



素材特性を活かした漆工品の研究

造形短期大学部
造形芸術学科
准教授

天羽 慎之介



研究シーズの紹介

これまで伝統的な漆工品の素地（胎）として木材が使用されてきた。理由は無垢材がもつ安心感や、豊富な森林資源を活かす為の加工技術の発展と成熟などがあげられる。しかし木材はその不均質性から、歪みや割れ、収縮などの変形が伴う為、漆工品の素地として扱う際にはそれらの障害を制御する方法として伝統的な技法が踏襲されてきた。一方、現代においてはエンジニアリングウッドや樹脂等の新素材が開発さ

れ、これまで使用されてきた工芸的素材から代替が図られている。ここで改めて漆工品の素地について再考し、現代のライフスタイルに合った漆の利活用について検証する必要がある。本研究では現代のライフスタイルに合った漆の利活用の方法を①素地と漆との関係性からの考察と、②その検証としての制作の2つの視点から探り、生活に寄与する漆工品を提案することを目的とする。



伝統技法の見直しによる利活用

- 塗料である漆は、近年開発された下地塗料や精製方法により、様々な素材に塗布が可能である。



使い捨てで使用される紙皿や箸を和紙で補強し、漆を塗布した製品。伝統的な漆芸技法である「和紙肌塗り」と「色粉蒔き」により、耐久性と質感を仕上げている。

左：使い捨ての食器類
右：漆を塗布した製品

期待される活用シーン

- 紙、木材、ガラスなど素材メーカーによる自社製品の開発、および陶器などの製造メーカーとの新製品開発



ブランドイメージの一新、および高級感の演出

- 漆器や工芸品を生活に取り入れてみたいと考えているユーザー、またその可能性をもつターゲット層



生活へ漆器や工芸品を取り入れるきっかけを提供することができる